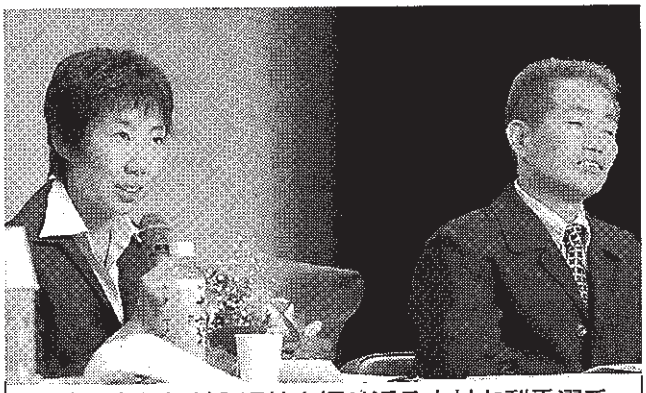
朝日新聞

2008年(平成20年)10月1日　水曜日

4年後 再挑戦したい



冗談を交えながら五輪を振り返る中村友梨香選手と武富豊監督＝岡山市柳町2丁目のさん太ホール

北京五輪のマラソン女子で13位と健闘した天満屋の中村友梨香選手と武富豊監督がこのほど、岡山市内で講演した。中村選手は「気持ちで負けてしまった部分もあり、力を出し切れなかった悔しさがある」と初の五輪を振り返る一方、「4年後（ロンドン五輪）にもう一度チャレンジしたい」と意気込みを語った。

（北上田剛）

マラソンの中村選手

岡山で講演 北京振り返る

現地時間で午前7時半からのレースに備え、当日は午前2時ごろに起床したという中村選手。「野口(みずき)選手の棄権があったが、自分のことに集中しようと思った」と振り返った。「体調も悪くなかったし、不安なくスタートラインに立てた」

だが、レースは思わぬスローペースに。中村選手は「最初はジョギングみたいなペース。『これで良いのかな』と思いながらも、前に出る勇気がなかった」と明かした。

武富監督が指摘したのも、「勇気」だった。「30キロを過ぎるとみんな足が重くなる。そこで『よし、勝負しよう』と思うか、不安になってしまうかがポイントで、そこが経験の差」。中村選手は「集団から遅れられない、という気持ちで、強気になれなかった」と悔やんだ。

スタンドに入ってきた時、「『入賞できなかった』という気持ちの中、少しでも早くゴールしようと思って走った」という中村選手は、今後について「とにかく4年後に挑戦したい。その二つです」と答えて会場を笑わせた。

講演では会場から、代表選手の選考方法などについて質問が寄せられた。武富監督は「現場サイドとしては一発勝負を望んでいるが、いろんな形の選考をした方が良い結果が出るという方針でやっている。どちらが良いとは言えない」とし、選手村に入らなかったことへの批判については「調整を考えると、今まで通りにやりたい」と話した。

補欠に選ばれていた同じ天満屋の森本友選手については、7月下旬に選ばれた3選手が順調だったことで補欠を解除となったという。武富監督は「その後は休ませていたので、『森本は無理です』と答えた」と話した。

また、武富監督は「この8年間、若手が育っていない。中村らを、世界と戦える野口のレベルに何人上げられるかが課題」と述べ、「お世話になっている岡山出身の選手を五輪に出したいとの気持ちはすごく強い」と語った。

講演は、地元の著名人を招いた講演会を続ける「おかやま適塾」（馬場勉塾長）の主催。この日は、約80人の聴衆が集まった。